

「地域で追い出せ、特殊詐欺」

大和町立吉田小学校 6年

嶋田 大雅さん

昨今、核家族が増え、ひとり暮らしの高齢者が増えている。このような状況とともに増えているのが、高齢者を狙った「特殊詐欺」だ。

「特殊詐欺」とは組織で行われる犯罪で、不特定多数の人から現金などをだまし取る犯罪だ。ニュースなどでも報道されているが、最近では銀行員などを装いキャッシュカードなどをだまし取る、また携帯電話のメッセージを利用し架空請求をするなど、高齢者では詐欺に気づきにくい方法で犯罪が行われているようだ。

私の家では離れて暮らす高齢の家族を守るために、週に一度祖母の家を訪問している。その際困りごとやこの一週間で変わったことがなかったかなど必ず聞くようにしている。また、高齢者には難しいスマートフォンの使い方を教えることもある。私の家から祖母の家まで車で一時間ほどで着く距離のため、定期的に祖母の様子を見に行くことができる環境であるが、遠く離れて暮らす家族の場合はどうだろうか。会う機会が少なく困りごとがあっても、離れて暮らす家族に気軽に相談もできず、一人で悩みを抱えてしまわないだろうか。

このような状況を少しでも改善するために、私は地域のコミュニケーションをより強化する必要があると思う。コミュニケーションを取りやすい環境を作ることで、近くに家族がいなくても気軽に相談することのできる知人が増え、高齢者が孤独になることを防ぎ、「特殊詐欺」被害が減少することにつながると考えたからだ。

はじめて会う人や顔見知り程度の人に話しかけるのは少し勇気がいる。しかし、自分や自分の家族以外の人にも関心を持ち気にかけることで、自然と会話が生まれ、ひとり暮らしの孤独感を和らげ、気軽に相談できる関係を作りあげることができる。地域のコミュニケーションの輪が広がることで、地域の見守り体制が強化され、詐欺被害も大きく減少できると思う。

高齢者を狙う「特殊詐欺」を防ぐためにも、地域の人達が他人に関心を持ち、お互いを気にかける気持ちが重要だと思う。特に私達若い世代が、地域コミュニティの輪の中心となって高齢者に声をかけ続ける必要があると思う。具体的には、「電話でお金の話が出たらすぐに返事をせず、勇気を出して誰かに相談する。」などの声かけを続けていくことで高齢者を特殊詐欺から守っていききたい。